

インド学仏教史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
インド学特論Ⅰ	祭式文献購読 ヴェーダ 散文選	2	西村 直子	前期 木曜2限
インド学特論Ⅱ	祭式文献講読 ウパグ・サ ウシュラヴァサの物語	2	西村 直子	後期 木曜2限
インド仏教史特論Ⅰ	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	前期 月曜2限
インド仏教史特論Ⅱ	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	後期 月曜2限
インド学仏教史特論Ⅰ	仏典梵文写本入門	2	加納 和雄	前期 集中講義
インド学研究演習Ⅰ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	前期 火曜5限
インド学研究演習Ⅱ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	後期 火曜5限
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舎 論』の講読	2	渡辺 亮	前期 木曜5限
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舎 論』の講読	2	渡辺 亮	後期 木曜5限

科目名：インド学特論 I

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：西村 直子

コード：LM14204, **科目ナンバリング：**LGH-PHI601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選

2. 授業の目的と概要：本講義では『タイツィリヤ・サンヒター』(B.C. 700 頃以降), 『ジャイミニヤ・ブラーフマナ』(B.C. 650 頃以降) 等における, 息子を殺された Vasistha のエピソード各ヴァージョンを取り上げ, 読解演習を行う。講読を通じて, 文献学の具体的方法習得に努める。Schroeder の校訂本等を基本テキストとして, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacD

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し, ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について, 取り上げる題材の概要, 予習の進め方, 授業の進め方等について説明)

2-15 Taittiriya-Samhita 及び Jaiminiya-Brahmana 原典講読

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Taittiriya-Samhita (Ed. Weber) 及び Jaiminiya-Brahmana (Ed. Raghu Vira-Lokesh Chandra); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen; Gotō: Old Indo-Aryan Morphology; MacDonnell, Vedic Grammar for Students; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney

7. 授業時間外学習：授業は, 最初はゆっくり進めるが, 後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は, 可能な範囲でよいので, 単語を調べ, 語形を確定し, 訳すように努力すること。予習が難しい場合は, 授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM24204, 科目ナンバリング：LGH-PHI602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：祭式文献講読 ウバグ・サウシュラヴァサの物語

2. 授業の目的と概要：本講義では『ジャイミニヤー・ブラーフマナ』III 199-202 (B. C. 650 頃以降) に採録される「ウバグ・サウシュラヴァサの物語」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Raghu Vira-Lokesh Chandra が校訂した Jaiminīya-Brāhmaṇa をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Ma

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Jaiminīya-Brāhmaṇa III 199-202 (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Jaiminīya-Brāhmaṇa (Ed. Raghu Vira-Lokesh Chandra); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Students; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar 等。

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史特論 I

曜日・講時：月曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM11203, **科目ナンバリング：**LGH-PHI603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM21202, 科目ナンバリング：LGH-PHI604J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド学仏教史特論 I

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：加納 和雄

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LGH-PHI605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：仏典梵文写本入門

2・授業の目的と概要：インド仏教を研究するための一次資料には、周辺地域で翻訳された仏典翻訳文献と、写本として残された梵文原典（もしくはインド語原典）とがある。とりわけ梵文写本は、仏典原典の言語を直接伝える重要な資料であり、近年その研究は大きく進展している。仏典の梵文写本はインド本土においてほぼ失われているが、チベットやネパールなどヒマラヤ地域には、質・量ともに優れた梵文写本が数多く伝存している。

しかし、未解明の写本も多く、読解と整理にはなお課題が残る。本授業では、梵文仏典写本研究の全体像を学び、写本素材および古代・中世イン

3. 学習の到達目標：梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら基礎的な知識と能力を養うことを目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1～3回 梵文仏典写本読解のための基礎知識

第4～15回 梵文仏典写本読の読解

（読解対象とするテキストは、出席者の興味に応じて対応したい。）

5. 成績評価方法：授業への準備（30%）、授業で示される理解度（70%）

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：授業で配布する資料の復習。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

できれば初級サンスクリット語を習得していることが望ましいが、初心者も歓迎する。

科目名：インド学研究演習 I

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：西村 直子

コード：LM12506, **科目ナンバリング：**LGH-PHI606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 VII 18 「十王戦争の歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 インTRODクシON (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 R.gveda VII 18

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%) および授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Students; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM22507, 科目ナンバリング：LGH-PHI607J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 III 33 「Visvamitra と河神との対話讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Gra

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 R.gveda III 33

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%) および授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Students; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史研究演習 I

曜日・講時：木曜 5 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LM14501, 科目ナンバリング：LGH-PHI608J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要：Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。この授業では同書第 1 章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し、Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読 -1-
2. 『俱舎論』講読 -2-
3. 『俱舎論』講読 -3-
4. 『俱舎論』講読 -4-
5. 『俱舎論』講読 -5-
6. 『俱舎論』講読 -6-
7. 『俱舎論』講読 -7-
8. 『俱舎論』講読 -8-
9. 『俱舎論』講読 -9-
10. 『俱舎論』講読 -10-
11. 『俱舎論』講読 -11-
12. 『俱舎論』講読 -12-
13. 『俱舎論』講読 -13-
14. 『俱舎論』講読 -14-
15. 『俱舎論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書：用いる基本資料は次の通り：

- ・梵文原典：Abhidharm-koshaḥ of Vasubandhu (ed. Pradhan, P.). Patna: K. P. Jayaswal Research Institute, 1967.
- ・チベット語訳：デルゲ版および北京版を使用
- ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』および『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ

曜日・講時：木曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LM24501, 科目ナンバリング：LGH-PHI609J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要：Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。この授業では前期に引き続き同書第1章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し、Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読 -1-
2. 『俱舎論』講読 -2-
3. 『俱舎論』講読 -3-
4. 『俱舎論』講読 -4-
5. 『俱舎論』講読 -5-
6. 『俱舎論』講読 -6-
7. 『俱舎論』講読 -7-
8. 『俱舎論』講読 -8-
9. 『俱舎論』講読 -9-
10. 『俱舎論』講読 -10-
11. 『俱舎論』講読 -11-
12. 『俱舎論』講読 -12-
13. 『俱舎論』講読 -13-
14. 『俱舎論』講読 -14-
15. 『俱舎論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書：用いる基本資料は次の通り：

- ・梵文原典：Abhidharm-koshabhāṣya of Vasubandhu (ed. Pradhan, P.). Patna: K. P. Jayaswal Research Institute, 1967.
- ・チベット語訳：デルゲ版および北京版を使用
- ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』および『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

9. その他：

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。